令和２年度

所　　報

鳥取市教育委員会
鳥取市教育センター

は　じ　め　に

平成１９年４月に設置された鳥取市教育センターは、令和２年度で１４年目を迎えました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の対応に追われた令和２年度は、学校現場や教育関係機関において「例年通りのやり方」が通用しない大変困難な１年でした。学校や子どもたちのために形を変えてでも何かをしていくことを考え、教育センターは「教職員研修の充実」「ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けたＩＣＴ環境整備」「サポートルームの運営」を三つの柱として、各学校や関係機関と連携を図りながら事業を進めてきました。

コロナ禍において、３密回避や新規ＡＬＴ来日延期等により「グローバル人材育成に向けた取組」として予定していた「きなんせ！English World・キャラバン」は、すべて中止となりました。楽しみにしていた児童生徒に対して大変申し訳なく思っています。

「教職員研修の充実」においても、コロナ禍の影響を受け中止とした研修もありましたが、各学校の御協力をいただき、工夫しながら遠隔研修を実施することができました。その成果を踏まえ、今後の研修運営に活かしていきたいと考えています。

また、「ＧＩＧＡスクール構想の実現に向けたＩＣＴ環境整備」として、校内通信ネットワーク整備・１人１台端末整備等を進めてきました。４月から本格的な運用が開始となり、効果的なＩＣＴ活用による子ども一人一人の主体的・対話的で深い学びの実現を期待しているところです。

これまでの「適応指導教室」を「サポートルーム」と名称を改め、「すなはま・レインボー」の運営や支援の充実に努めました。今後も学校・保護者と連携を図り、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを支援の視点として踏まえ、より一層個別のニーズに応じた支援に努めてまいります。

さて、コロナの収束がみえず、今後も様々な対応・工夫を求められることが続くと思われます。教育センターは、他者とのかかわりを大事にしながら、子どもたちが互いに自己有用感を高めることができることを願っています。「心のつながり、人のつながり、学びのつながり」をより一層意識して学校や関係機関との連携をさらに深め、苦しい逆境を乗り越え子どもたちも教職員も笑顔で過ごせるよう、皆さんとともにがんばっていきたいと考えています。

最後になりましたが、今年度の教育センター運営に対し、格別の御協力と御支援を賜りました関係諸機関の皆様に厚く感謝申し上げますとともに、今後とも、より一層の御指導・御支援をよろしくお願いいたします。

令和３年３月

鳥取市教育センター
所　長　　東田　重高

ー目　次ー

はじめに

Ⅰ　鳥取市教育センターの概要

１　設置の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
２　沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
３　組織及び業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　令和２年度の事業概要

１　教職員研修のねらい、実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
２　中堅教諭等資質向上研修　企画選択研修の事例・・・・・・・・・・・・・・4
３　教師力サポート研修・次代を担うとっとり教職員派遣・・・・6
４　先輩に学ぶ　講師研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
５　学校支援人材活用　～小学校外国語・外国語活動支援員～・・・・・9
６　ＧＩＧＡスクール構想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
７　サポートルーム「すなはま」「レインボー」の運営・・・・・・・・・12
８　サポートルーム「すなはま」「レインボー」利用に関する相談状況・・・16

Ⅰ　鳥取市教育センターの概要

１　設置の目的

教育に関する専門的、技術的事項の調査研究、教職員の研修等を行うとともに、不登校等の児童生徒に対する支援を行い、教育水準の向上及び児童生徒の健全な育成を図る。

（「鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例」から）

２　沿革

平成１９年　４月　１日	鳥取市教育センターの設置及び管理に関する条例施行 鳥取市寺町１５０番地に鳥取市教育センター設置
平成１９年　４月２６日	鳥取市教育センター開所式
平成２０年　４月　１日	適応指導教室「けたかレインボー」気高町総合支所３階に移設
平成２８年　４月　１日	特別支援教育係を新設、研修企画係との２係体制
平成２８年１１月１１日	適応指導教室「けたかレインボー」鹿野町総合支所２階に移設 「レインボー」に名称変更
平成３０年　５月　１日	鳥取市教育センター内に「こども発達支援センター」開設
令和　２年　４月　１日	適応指導教室「すなはま」「レインボー」を サポートルーム「すなはま」「レインボー」に名称変更
令和　２年　４月２７日	「こども発達支援センター」市役所駅南庁舎１階に移設

３　組織及び業務

所長

研修企画係

研修企画係長１名
主幹１名
主任２名
指導主事３名
ＡＬＴコーディネーター１名
一般事務員１名

- 県教育委員会、他部局との連携
- 教職員研修（基本研修、職務研修、サポート研修等）
- 次代を担うとっとり教職員派遣事業
- ALT、小学校外国語・外国語活動支援員（配置と運用）
- きなんせ！English World（キャラバン含む）
- ＧＩＧＡスクール構想事業
- 特別非常勤講師（配置と運用）
- 教育情報の提供（HP、教育センターだより）
- 研修用図書、DVD 等の貸出
- 教員用、教育用コンピュータ（更新等の対応）
- 体育館、研修室の管理と運用

児童生徒支援係

- サポートルーム「すなはま」「レインボー」の運営

児童生徒支援係長１名
主幹１名
指導主事兼教育指導員１名
サポートルーム教育指導員５名
（「レインボー」１名含む）

１　教職員研修のねらい、実績

（１）ねらい

「すべての子どもが幸せになるために　ともに学び続ける教師をめざして」を基本方針に掲げ、特別支援教育の視点を基盤とした教職員の資質・能力の向上に向けた研修を実施する。

（２）実績（研修体系順）

日時	研修名 （コラボ開催を含む）	内容（講義題等）	講師	人数
4/2	初任者研修① 新規採用養護教諭研修①	鳥取市教職員としての責務と使命 児童生徒との信頼関係を築くために	鳥取市教育委員会	中止
5/21 ～7/13 8/26 ～10/7	初任者研修②（２回訪問）	初任者学校訪問（授業参観・管理職との協議・初任者との面談）	鳥取市教育委員会	35 名
8/3	初任者研修③ 新規採用養護教諭研修②	教師としての心構え 児童生徒理解と教育実践への意欲づけ	鳥取市教育委員会	遠隔 35 名
１２月末まで	初任者研修④	先輩教諭の授業づくりや学級経営に学ぶ	先輩教諭	35 名
5/19	中堅教諭等資質向上研修① １６年目研修①	魅力ある学級づくりとマルチレベル・アプローチ	島根県立大学 准教授　山田　洋平	中止
6/11	中堅教諭等資質向上研修② ６年目研修①	子ども主体で学び合う授業づくり ～協同学習の視点～	岡山大学 教授　高旗　浩志	遠隔 74 名
8/17	中堅教諭等資質向上研修③ 特別支援教育ステップアップ研修① 特別支援教育支援員研修②（選択 A） 学校司書研修（選択 A）	愛着形成に関する基本的考え方と支援のあり方	大正大学 教授　玉井　邦夫	遠隔 103 名
9/4	中堅教諭等資質向上研修④ 特別支援教育ステップアップ研修③ 特別支援教育支援員研修②（選択 C） 学校司書研修（選択 C）	学校全体で取り組むポジティブ行動支援	大阪樟蔭女子大学 准教授　田中　善大	遠隔 113 名
11/19	中堅教諭等資質向上研修⑤ １６年目研修②	自治力のある学級づくり ～子どもたちのよりよい人間関係を育むピア・サポート、自治力の育成につながるピア・メディエーションの活かし方～	兵庫教育大学 特任教授　池島　徳大	遠隔 74 名
12/10	中堅教諭等資質向上研修⑥ ６年目研修②	キャリア教育について	鳥取市教育委員会	遠隔 77 名
5/11	校長研修①	すべての子どもを支援するための学校づくり	広島大学 教授　栗原　慎二	中止
7/10	校長研修②	自分の強みを生かし、教師と子どもを支える学校経営	立命館大学 教授　菱田　準子	中止
6/12	副校長・教頭研修①	子どもが輝く学校づくり	桃山学院教育大学 教授　松久　眞実	遠隔 64 名
8/31	副校長・教頭研修②	自然災害に対する防災教育の現状と展望	滋賀大学 教授　藤岡　達也	遠隔 64 名

5/15	授業づくり研修①	全員参加を大切にした授業づくり	学校法人蒲公英学園（たんぽぽ学園）稚竹幼稚園 園長　西留　安雄	中止
11/27	授業づくり研修②	あなたの授業は、子ども同士が「教え合い」をしていますか	学校法人蒲公英学園（たんぽぽ学園）稚竹幼稚園 園長　西留　安雄	遠隔 56名
7/3	教務主任研修	特色ある学校で子どもが輝く	甲南女子大学 教授　村川　雅弘	遠隔 58名
7/14	道徳教育推進教師研修（全）	子どもの評価の考え方を生かした道徳科の授業づくり	文部科学省初等中等教育局 教科調査官　浅見　哲也	遠隔 56名
7/6	情報化推進リーダー研修（全）	情報活用能力を育むためのカリキュラムの作成	放送大学 教授　中川　一史	遠隔 56名
6/26	学校司書・司書教諭研修（全）	学校司書・司書教諭としての役割について	鳥取市教育委員会	遠隔 113名
8/3	講師研修①	すべての子どもがしあわせになるために ともに学び続ける教師をめざして	鳥取市教育委員会	遠隔 45名
12/1 12/3 12/7	講師研修②	先輩教諭の授業づくりや学級経営に学ぶ	先輩教諭・養護教諭	遠隔 45名
6/29	特別支援教育主任研修（全） 幼保小中連携研修	ＵＤＬでつなげる幼保小中連携	早稲田大学 教授　高橋　あつ子	遠隔 125名
7/27	特別支援学級担任研修（全）	一人一人の明日に活かす自立活動の在り方	島根県立大学 教授　園山　繁樹	中止
8/4	特別支援教育支援員研修①	再点検！個に応じた指導・支援の実際 ～発達障害の理解と具体的な指導・支援の在り方～	舞鶴工業高等専門学校 特命教授　特別支援教育士スーパーバイザー　後野　文雄	遠隔 49名
8/18	特別支援教育ステップアップ研修② 特別支援教育支援員研修②（選択B） 学校司書研修（選択B）	一人一人が輝く学校のために ～個別の指導計画の活用～	関西国際大学 教授　中尾　繁樹	遠隔 107名
5/26	人権教育主任研修①	県・市の人権教育の方針・施策の理解と各校における推進	鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会	中止
11/9	人権教育主任研修②	ネットによるいじめとその対策	兵庫県立大学 准教授　竹内　和雄	遠隔 56名
5/21	教育相談コーディネーター研修①	子ども・保護者の支援につなげるスクリーニング会議、ケース会議	鳥取市教育委員会	中止
10/29	教育相談コーディネーター研修② 児童生徒相談員研修②	不登校の現状と組織的対応の取組について	鳥取県教育委員会	遠隔 70名
4/28	児童生徒相談員研修①	生徒指導専任相談員の職務と求められる役割	鳥取市教育委員会	中止
6/2	外国語活動支援員研修 ワークショップ①	学級担任と連携した小学校外国語活動・外国語科の授業づくり	島根大学 教授　大谷　みどり	中止
11/5	外国語教育小中連携研修	外国語活動・外国語科の授業の在り方	文部科学省初等中等教育局 視学官　直山 木綿子	遠隔 56名
6/23	教職員人権教育研修	鳥取市の学校人権教育の推進について	鳥取市教育委員会	遠隔 55名
7/31	学級づくり研修	子どもが自分のよさを発揮できる温かい学級づくり	鳥取市教育委員会	中止
6/25	ワークショップ② 幼保小中連携研修	温かい学級づくり ～社会性と情動の学習「ＳＥＬ－８Ｓ」の活かし方～	福岡教育大学 教授　小泉　令三	遠隔 16名
10月～ 11月 計６回	ＩＣＴ活用指導力向上研修①基礎編	iPadの基本操作	鳥取市教育委員会	37名
1月 計４回	ＩＣＴ活用指導力向上研修②応用編	Google Meetの基本操作	鳥取市教育委員会	56名

２　中堅教諭等資質向上研修　企画選択研修の事例

（１）ねらい

①キャリア体験：保育園・幼稚園・認定こども園・特別支援学校における体験活動を通して、園児・児童生徒の実態や指導者の関わり方を把握し、その成果を教育活動に反映させる。

②地域貢献体験：地域での行事等の体験活動を通して、地域との連携や人とのかかわりの重要性を理解し、自校の教育活動に反映させる。

③指導助言体験：授業研究会で指導助言を担当することで、学習指導の専門的知識・技能の向上を図る。

（２）実績

対象者：２２名（１９校）
※小学校１２名（１１校）、中学校６名（５校）、義務教育学校４名（３校）

①キャリア体験

体験先（学校・園）		人数	内　容	時　期
特別支援学校	鳥取聾学校	２人	・児童生徒との交流 ・特別支援学校教職員との協議・情報交換 ・施設見学	１０月
保育園	久松保育園 いなば保育園 城北保育園 白ゆり保育園 さとに保育園 白兎保育園 浜坂保育園 大正保育園 こじか園 美和保育園 かんろ保育園 福部保育園	１５人	○園児との交流 ・朝の登園指導 ・自由遊び ・給食指導 ○園長、保育士との協議、情報交換	８月～９月
幼稚園	第二幼稚園 ルーテル幼稚園	２人		
中止		３人	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験先との協議の上、中止となった。	

＜中堅教諭の声＞
○鳥取聾学校の施設見学を行い、学校での支援で気を付けていることを聞き、目と目を合わせ心を合わせて話をするなど、指導や支援において日頃忘れがちだが大事なことを再認識できた。
○保育するうえで、自分の思いを言えるように、園児が話すのを待つことを大事しているという話を聞き、小学校に入学してからも、自分の思いを語れるように引き続き指導していくことが大切だという思いを共有できた。
○年長の園児が下級クラスの園児に対してサポートをしている姿を見て、小学校１年生で求めるレベルについて考え直すきっかけとなった。
○園児に接する保育士さんの仕事ぶりと、綿密な保育計画のもと、保育にあたっている様子がとても参考になった。
○保育園での体験を通して、子どものやる気、意欲を大切にし、遊びの中から学び、遊び切る子どもの育成を目指していることを学んだ。
※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験活動実施が大変難しかった。体験活動を行っても、２時間以内といった短時間での体験となった場合がほとんどで、十分体験や協議に時間をとることができなかったが、その中で園での取組や自校の児童生徒への指導で大切にしていることを伝え、発達段階に合わせてそれぞれ大事にしていきたいことについて意見交換を行うことができた。

②地域貢献体験

体験・活動先（公民館・場所等）		人数	内　容	時　期
公民館活動	久松地区公民館 浜坂地区公民館	15 人	・公民館行事への見学・参加（地域の学習講座・防災啓発活動・花いっぱい運動）	６月～１２月

公民館活動	面影地区公民館 醇風地区公民館 岩倉地区公民館 修立地区公民館 大正地区公民館 末恒地区公民館 湖山地区公民館 下味野児童館	15 人	・清掃活動 ・まちづくり協議会への参加 ・子ども食堂の取組について ※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から地域の団体の活動や公民館活動の多くが中止となり、それに伴い打ち合わせ等も中止となったため、意見交換を行う時間がとれなかった。	６月～１２月
清掃活動	鹿野城址	２人	鹿野城址清掃活動	１１月
公共施設	鳥取砂丘ビジターセンター	１人	鳥取砂丘ビジターセンターでの受付業務	１０月
中止		４人	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体験先との協議の上、中止となった。	

＜中堅教諭の声＞
○これまで地域のことを知るきっかけがなかなか持てなかったが、公民館行事に参加し、活動の中で地域の方と話す中で多くの大人が子どもたちの指導に当たっていることを知り、地域の方の思いを知ることができた。
○地域の方と清掃活動を行う中で、地域のいろいろな教育資源について知り、今後の学習に活かそうという意欲が高まった。
○鳥取砂丘ビジターセンターで見学に来た小学校の対応をすることで、対応の仕方や自校が見学する際に活かせる経験ができた。
※中堅教諭から、地域の団体や公民館活動等、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止や縮小となり、打ち合わせにも参加できないという声を多く聞いた。参加できても短時間の活動で情報交換を行うこともなかなかできなかったが、地域貢献体験を通して地域の方の思いや地域のよさについて知るきっかけとなった。

③指導助言体験

指導助言対象	人数	内　　容	時　期
初任研	６人	初任研での指導助言、授業づくりへの協力	６月～１月
校内授業研	１６人	校内授業研究会での指導助言	７月～１２月

＜中堅教諭の声＞
○初任者の授業研究会に向けて、指導案作成や事前研究会に関わり、授業づくりの指導を行うことができた。初任者への指導を通して、学習指導要領を読み直す等、自分自身の授業づくりを見つめ直すよい機会となった。
○日常的に初任者や講師と意見交換や情報交換を行うようにすることで、指導助言体験だけではなく、日々の授業においてもアドバイスができるようにした。
○自主的にミニ研修会を開き、その中で初任者や講師の思いを聞きながら自分が学んだことや考えていることを伝える活動を行った。その準備の過程で自分自身の学んだことを整理したことで自身の学びにもつながった。
※年度当初から昨年度の臨時休業による学び残しを取り返すために授業時間の確保が急務となり、なかなか予定通り授業研究会を実施することが難しい学校もあった。

（３）成果と課題（○：成果　▲：課題　◇：展望）

○中堅教諭は、新型コロナウイルス感染症対策のため、キャリア体験・地域貢献体験の実施が難しかった。その中でも時間や体験内容を派遣先職員と協議し、情報交換や体験活動を行うことができた。しかし例年のように指導・支援の在り方を学び、自校における幼保小連携計画の見直し等につなげることが十分できなかった。

令和３年度に向けて

◇キャリア体験研修を保育体験研修とし、園児や児童生徒の支援の在り方や環境づくりの工夫などについてより理解を深められるように、園児や児童生徒との交流だけでなく、必ず派遣先職員との協議・情報交換の時間を設定する。

３　教師力サポート研修・次代を担うとっとり教職員派遣事業

（１）教師力サポート研修

① ねらい

研修と学校をつなぐために、学校に課題に即したワークショップ型の出前研修を提供し、教職員の指導力向上及び学校の活性化を支援する。

② 実績

	月日	派遣先	教科等	対象・人数
	内容			
1	５月２７日（水）	美保小学校	校内研修会 Ｗｅｂ会議活用	職員　　４０名
	○Ｗｅｂｅｘに関する説明およびＷｅｂ会議システムの試用			
2	７月１３日（月）	散岐小学校	英語専科授業	部員　　１０名
	○英語専科授業参観を通した、指導法・教材提示の工夫			
3	７月２０日（月）	桜ケ丘中学校区研修会 （米里小学校）	中学校区研修会 Ｗｅｂ会議活用	職員　　１０名
	○Ｗｅｂｅｘに関する説明およびＷｅｂ会議システムを活用した遠隔講義の方法			
4	７月２９日（水）	中ノ郷中学校	校内研修会 アセス活用	職員　　３０名
	○子どもたちのよりよい人間関係づくりに向けたアセス活用			
5	８月２１日（金）	小教研体育部会 （若葉台小学校）	体育科授業研究会	部員　　４５名
	○体育科保健領域の理論研究についての説明			
6	８月２８日（金）	若葉台小学校	小学校長会研修会	校長等　４５名
	○「鳥取市　ＧＩＧＡスクール構想について」の全体構想の説明			
7	９月　２日（水）	遷喬小学校	校内研修会 プログラミング教育	職員　　１５名
	○プログラミング的思考に関する説明および授業への活用について			
8	９月１０日（木）	日進小学校	校内授業研究会 算数	職員　　２０名
	○ＵＤを通して、「わかった」「できた」を実感できる授業の工夫			
9	９月３０日（水）	米里小学校	校内研修会 授業づくり	職員　　１５名
	○すべての児童が脳を働かせる「話す」「聞く」の活動に向けた発問・視覚支援・話し合いの場等の工夫			
10	１０月　２日（金）	小教研体育部会 （青谷小学校）	体育科授業研究会	部員　　４５名
	○健康課題を主体的に解決する学びについて			
11	１０月　８日（木）	中ノ郷小学校	校内授業研究会 算数	職員　　２０名
	○「できた」「わかった」を実感できる授業づくり			
12	１０月２７日（火）	北中学校	数学科校内授業研究会（教科会等）	職員　　１０名
	○学びの楽しさ・つながる喜びを実感できる授業づくり			
13	１２月　２日（水）	桜ヶ丘中学校区合同授業研究会（面影小学校、米里小学校）	中学校区研修会 Ｗｅｂ会議活用	職員　１００名
	○Ｗｅｂ会議システムを活用した遠隔講義の実施			
14	１２月　３日（木）	小教研体育部会 （若葉台小学校）	体育科授業研究会	部員　　４５名
	○ともに学び、未来を創る鳥取の体育の授業づくりをめざして			

15	１２月　４日（金）	日進小学校	校内授業研究会 算数	職員　　２０名
	○つけたい力を明確に持ち、ＵＤにおける「焦点化」「共有化」を意識した支援の工夫			
16	１２月１１日（金）	東中学校	校内授業研究会 数学	職員　　３５名
	○学びの楽しさ、奥深さを実感できる授業づくり			
17	２月１７日（水）	湖南学園	校内研修会 Google Classroom の活用	職員　　２７名
	○校内でGoogle Classroom活用を推進するための技能の習得			
18	２月２６日（金）	若葉台小学校	校内研修会 Google Classroom の活用	職員　　２２名
	○校内でGoogle Classroom活用を推進するための技能の習得			
19	３月　５日（金）	千代南中学校	校内研修会 Google Classroom の活用	職員　　１７名
	○校内でGoogle Classroom活用を推進するための技能の習得			

（２） 次代を担うとっとり教職員派遣事業

①ねらい

県外の先進的な取り組みや特色ある取り組みを進める学校及び大学、教育施設等へ教職員を１週間程度派遣し、教育への見識を高めるとともに鳥取市の教育を牽引する自覚と意欲を持った人材を育成する。

②実績

・新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みて、令和２年４月１３日付で、「令和２年度次代を担うとっとり教職員派遣事業に係る教職員の県外派遣の見合わせについて（通知）」を学校へ発出した。
・新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みて、令和２年１０月７日付で、「令和２年度次代を担うとっとり教職員派遣事業に係る教職員派遣の中止について（通知）」を学校へ発出した。
・今年度、本事業は実施できなかった。

（３） 成果と課題（○：成果　▲：課題　◇：展望）

○指導主事が各学校へ出かけ、学校課題に応じた研修内容を提供することによって、各学校において実態に応じた具体的方策の考案に活かすことができた。
○コロナ禍において、Ｗｅｂ会議システムを活用する等、教師も児童生徒も学びを止めないための工夫を考えた実践が見られた。
▲各学校の課題解決や要請に対応したワークショップ型研修内容やＩＣＴを活用した授業実践について、情報を求められることが多かった。常に全国の最新の教育情報を提供する等の役割が求められる。

令和３年度に向けて

◇研修と学校をつなぐ視点から、サポート研修の充実を図る。特に、ＩＣＴを活用した授業づくりについては、実践事例を紹介する等、学校のニーズにあった教職員の支援が求められる。

◇ＧＩＧＡスクール構想の導入により、各学校から様々な要請が予想される。学校のニーズに応えられるよう、ＩＣＴを活用した授業づくり等について全国の最新の情報をこまめに収集していく必要がある。

◇次代を担うとっとり教職員派遣事業は、平成２７年度から５年間実施し、一定の成果を得られたと考え、来年度から廃止とする。

４　先輩に学ぶ　講師研修会

（１）ねらい

先輩教師の授業参観・講話を通して、児童生徒一人一人を伸ばす授業づくりや学級経営（保健指導と保健室経営）について学び、学習指導・生徒指導に関する自己の課題解決を図る。

（２）実績

開催日	会場	方法	校長・授業者	内容	参加者
12/1	東 中学校	・公開授業動画配信 ・「会場校方式」 ・Ｗｅｂ会議システムによる遠隔講義	村田　直美 教諭	・公開授業：２年４組　道徳 ・主題名：よりよい社会の実現 （C　遵法精神、公徳心） ・教材名：宝塚方面行き一西宮北口駅 ・講　義：授業づくりと学級経営	19 名
12/3	岩倉 小学校	・集合研修	景山　直子 養護教諭	・実践発表 「保健室経営、保健指導の実際」 ・グループ協議（質疑応答）	5 名
12/7	倉田 小学校	・公開授業動画配信 ・「会場校方式」 ・Ｗｅｂ会議システムによる遠隔講義	大西 聡子　教諭	・公開授業：６年　道徳 ・主題名：分かり合う喜び （B　相互理解、寛容） ・教材名：ブランコ乗りとピエロ ・講　義：授業づくりと学級経営	23 名

（３）成果と課題（○：成果　▲：課題　◇：展望）

○新型コロナ感染症対応のため、集合しての授業参観の代わりに事前に動画を視聴して参加する形態にした。参加者は、何度も動画を視聴することができた。授業を見る機会が少ない者にとっては、全てが新鮮で多くの学びを得ていた。講義では事前回答書に沿って、受講者の課題意識に対して具体的な返しを意識しながらの講話であった。温かい学級経営を基盤とした授業から多くの学びを得て、教師としての心構えや授業に挑戦していく熱意を持つことができたようである。

○養護助教諭部会は、受講者が５名ということで、新型コロナウイルス感染症対策をしっかり行いながら「集合」という形の研修を行った。直接、先輩養護教諭や他の養護助教諭と顔を合わせながら話を聞いたり悩みを出し合ったりして、遠隔研修と比べると格段に研修の深まりが感じられた。養護助教諭同士がお互いに会う機会が減少する中で、横の連携をつくる貴重な機会となった。

▲年々、受講者の中に「特別支援学級担任」が増えてきている。事前回答書の中にも、特別支援学級担任としての悩み等も挙がってきている。今後、悩み解決のニーズに対応するため、演習等で特別支援学級担任のグループを組み、話し合う場面を設定することも検討が必要である。

▲新型コロナウイルス感染症の状況により、対応が変化し、受講形態等を含め対応が難しい。集合研修の利点を生かしながらの Web による遠隔研修の充実が急務である。

必要がある。

令和３年度に向けて

◇特別支援学級担任等の悩みに対応できるよう、特別支援教育に関する情報交換等の場面設定が必要である。

◇Ｗｅｂによる遠隔講義上での双方向の意見交換の場の充実と進行役の力量の向上が急がれる。

５　学校支援人材活用　～小学校外国語・外国語活動支援員～

（１）ねらい・内容

・小学校外国語・外国語活動では、学級担任による指導を基本とするが、児童を外国語や外国の文化に慣れ親しませたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけさせたりするために、外国語に堪能な地域人材やネイティブスピーカーと触れ合うことが効果的である。

・小学校外国語・外国語活動のねらいであるコミュニケーション能力の素地の育成を図るために、外国語・外国語活動の授業を補助する人材を活用し、外国語教育の円滑な実施を図る。

・各学校が自主的に地域人材に依頼したり、鳥取市教育センターから紹介を受けたりして確保した支援員により、３・４年生の各学級につき年間１０回以内、５・６年生の各学級につき年間１４回以内の外国語・外国語活動の授業において担任の授業を補助する。

（２）配置実績

・市の事業２０校、県の事業３９校で、２０校が両事業を併用（２名配置は１１校）

・配置した支援員は３２名で、１５名が兼務（最も多い支援員で４校）

・外国籍の支援員は８名、日本人支援員は２４名

（３）成果と課題（○：成果　▲：課題　◇：展望）

○支援員の多くが複数年支援にあたっており、豊富な指導経験を生かして楽しく授業支援を行い、外国語や外国文化に対する児童の興味・関心を高めている。

○外国語に堪能な方に支援していただくことで、授業構成や活動の工夫等ができ、担任のみの学習に比べ、授業の質が深まっている。

▲今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から外国語活動支援員研修（６月２日）の開催ができず、独立行政法人教職員支援機構（NITS）の動画による自主研修とした。そのため小学校外国語・外国語活動の趣旨や担任とのティーム・ティーチングの在り方について理解を深めることがしづらかったと考えられる。また、例年行われている鳥取市小学校教育研究会外国語活動部会の授業研究会への参加もできなかった。

▲支援員への連絡や授業内容の打ち合わせ、振り返りについて十分な時間確保が難しかった。

▲支援員の活用時間は県事業分と市事業分合わせると増加した（R1：４４７１回、R2：４７１６回）。各校における外国語活動の充実を図るため、授業支援が可能な地域人材をさらに確保することや支援員全体の指導力を高めることが求められる。

令和３年度に向けて

◇令和２年度より新学習指導要領が完全実施され、さらに支援員配置のニーズがさらに高まることが予想される。小学校外国語・外国語活動の授業支援が可能な地域人材の確保に努める。

◇外国語活動支援員を対象とした研修に外部講師を招聘し、小学校外国語・外国語活動の内容と小学校外国語・外国語活動支援員の役割について理解を深め、学級担任と外国語・外国語活動支援員のコラボ研修を企画する。

６　ＧＩＧＡスクール構想

（１）ねらい

これからの社会を生きぬくために必要な情報活用能力を育て、子どもたち一人一人のニーズに合わせた教育の実現に向けて、ＩＣＴを効果的に活用した学習を行うために、児童生徒１人１台端末と校内ネットワーク（無線ＬＡＮ）の一体整備を行った。

＜鳥取市ＧＩＧＡスクール構想の目的＞

○１人１台端末と校内ネットワークを一体的に整備することで、一人一人の教育的ニーズに対応した誰一人取り残すことのない学びや、資質・能力を一層確実に育成できる教育ＩＣＴ環境を実現する。

○ＩＣＴを効果的に活用した学びを推進し、１人１台端末を活用した授業改善をとおして、子ども一人一人の主体的・対話的で深い学びを実現する。

（２）実績

①　校内通信ネットワーク整備

○校内ＬＡＮ整備　第１期工事：２３校、第２期工事：３５校
○電源キャビネット整備　５４４台

②　児童生徒１人１台端末整備（１４，４５４台）

○導入端末：ｉＰａｄ（第８世代、Ｗｉ-Ｆｉモデル、３２ＧＢ）
・ｉＰａｄ（小・義務教育学校１、２年）耐衝撃防水カバー付き
・ｉＰａｄ（小学校３～6年、中学校１～３年、義務教育学校３～９年）キーボード付き

③　教員用端末整備（９１５台）

○導入端末：ｉＰａｄ（第８世代、Ｗｉ-Ｆｉモデル、３２ＧＢ）キーボード付き

④　周辺機器整備

○大型モニター用　接続アダプター
・ｉＰａｄと大型モニターを接続するアダプターとケーブルを整備

⑤　e-ラーニング教材の導入

○家庭学習を支援するデジタル教材（e-ラーニング教材）のアカウントを全児童生徒に配付

⑥　ＧＩＧＡスクールサポーター

○ＧＩＧＡスクール構想による学校のＩＣＴ環境整備を円滑に進めるため、校内ネットワーク環境整備設計等を業務委託

⑦　通信装置（カメラ・マイク）整備

○遠隔学習機能強化のためにＷｅｂカメラ、マイク整備

・小・中学校１セット、義務教育学校２セット

⑧　Ｗｉ−Ｆｉによるインターネット接続環境整備費助成金

○Ｗｉ−Ｆｉによるインターネット接続環境のない家庭に対する支援として、Ｗｉ−Ｆｉによるインターネット接続環境を整備した家庭に対し上限１万円を助成

⑨　障がいのある児童生徒のための入出力支援装置整備

○拡大読書器（１台）整備

⑩　「鳥取市　ＧＩＧＡスクール構想について」の作成

○令和２年９月２９日に、「鳥取市　ＧＩＧＡスクール構想について」を発出

○令和３年２月４日に、「鳥取市　ＧＩＧＡスクール構想について（追加版①）」を発出

⑪　ＩＣＴ活用に関する教職員研修の実施

○ＩＣＴ活用指導力向上研修①基礎編（希望者を対象に、全６回実施）

○ＩＣＴ活用指導力向上研修②応用編（各校１名を悉皆とし、計４回実施）

（３）成果と課題（○：成果　▲：課題　◇：展望）

○校内通信ネットワークの整備を年度内に完了した。

○児童生徒１人１台端末整備を年度内に完了予定。

○教職員が、１人１台端末を活用した授業イメージをもつことができるように、鳥取市ＧＩＧＡスクール構想の全体構想や利活用計画を含む「鳥取市ＧＩＧＡスクール構想について」を令和２年９月に配付した。

▲１人１台端末を学習ツールとして積極的に活用することで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながることが期待される。１人１台端末を活用した授業改善が促進されるように、今後も、ＩＣＴを活用した授業づくりに関する教職員研修を実施して、教職員のＩＣＴ活用指導力向上を支援する必要がある。

▲令和２年度に整備した端末の本格的活用が円滑に行えるよう、引き続き、運用支援及び必要なＩＣＴ環境整備を行っていく。

令和３年度に向けて

◇１人１台端末を日常的に活用した授業づくりを行い、ＩＣＴを活用して主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、教職員のＩＣＴ活用指導力向上に関する教職員研修を企画、実施する。

◇大型モニターの整備やフィルタリングソフト購入等、必要なＩＣＴ環境整備を行う。

◇アカウント管理やアプリ活用に向けたマニュアル作成、不具合時のヘルプデスク対応等、１人１台端末の管理運用を業務委託し、端末管理運用に伴う教職員の支援を図る。

7　サポートルーム「すなはま」「レインボー」の運営

（１）入級状況

①　入級児童生徒数

計１９名（小 12 名、中７名）　※３月末現在

		小学校						中学校			計
		１年	２年	３年	４年	５年	６年	１年	２年	３年	
すなはま	男	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4
	女	0	1	0	1	1	3	0	4	2	12
レインボー	男	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
計		0	1	0	2	2	7	0	5	2	19

②　月別入級児童生徒数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入級児童生徒数	0	2	3	4	2	0	3	3	1	1	0	0	19

③　入級児童生徒の活用状況

活用状況		人数	
		小学校	中学校
学校復帰	教室	0	0
	相談室	0	1
学校と併用	教室	3	0
	相談室	3	1
	放課後登校等	3	1
サポートルームのみ		2	4
その他		1	0
合計		12	7

サポートルームの活用状況		人数	
		小学校	中学校
週に３～５回程度	午前中心	2	1
	午後中心	1	0
	１日	4	3
週に１～２回程度	午前中心	1	1
	午後中心	0	0
	１日	3	1
学校復帰　他		1	1
合計		12	7

※「レインボー」は火・木・金曜日の午前中のみ開室

④　令和元年度（昨年度）入級児童生徒の状況

活用状況		人数	
		小学校	中学校
高校進学		0	2
学校	教室	2	3
	相談室	0	1
学校と併用	教室	1	0
	相談室	1	1
	放課後登校等	2	0
サポートルームのみ		0	1
自宅		0	3
合計		6	11

１７名の昨年度入級生のうち、今年度学校復帰（教室または相談室）しているのは９名、高校進学は２名である。

サポートルーム体験入級生の５名のうち４名は学校との併用を行っている。

（２）活　動

		月	火	水	木	金
午前	来室（9:30～10:00）	読書・自主学習・プランニング（今日の学習予定を決める）				
	10:00～10:50	学習①	体験活動	学 習①		
	10:50～11:00	休けい		休けい		
	11:00～11:50	学習②		学 習②		11:00～11:20 学 習②
						11:25～11:35 読み聞かせ
						11:40～50 そうじ
	11:50～12:00	昼のつどい		昼のつどい	昼のつどい	ふりかえり・帰宅
午後	12:00～13:00	昼食（おべんとう）・休けい				※金曜日は12:00帰宅
	13:00～14:20	集団活動	体験活動	集団活動	スポーツ（体育館）	＊チャレンジ登校日を個別に設定
	14:20～15:00	自由活動・今日のふりかえり・帰宅				＊毎月最終金曜日は閉室
		※火曜日は14:30帰宅				

① 学　習

・午前中は自分のめあてにそって学習計画を立て、学習を進めている。
・個別に教育指導員と相談し、学習計画を立て、見通しがもてるように支援した。学習の定着が十分に図られていない児童生徒に対して、それぞれに合った教材の提供を行った。
・夏休み明け以降、週に１回程度、児童生徒の学習支援を行うために学習支援員（数学・英語）を活用した。
・パーテーションや部屋の配置を工夫しながら、通級生が集中して学習に取り組むことができる環境づくりに努めた。

② 集団活動

・生活経験を広げるとともに、人との関わり方や社会性を培うことをねらい、月・水曜日の午後に集団活動の時間を設定した。
・調理活動や制作活動、すなはま農園作業等、年間を通して計画的に目的意識をもって取り組むことができた。
・保育園やデイサービスの方との交流に向けて、学習したことを生かしながら協力して準備を行うなど、児童生徒が関わり合う場面を設定した。
・９月の毎週水曜日の午後、鳥取県立聾学校手話普及コーディネーターと手話普及支援員を招き、手話体験活動を４回行った。

③ スポーツ

・体力向上と心身のリフレッシュをねらい、木曜日の午後にスポーツの時間を設定した。
・スポーツを通して人と触れ合う楽しさを感じることができた。
・体力づくりプログラムを実施する時間を設定し、皆でドリブルリレーや連続パスの記録を測ったり、バドミントン、卓球、バスケットボール等を中心に運動を行ったりした。

④ 昼のつどい

・前期は教育指導員やセンターの職員の話をじっくり聞くことで視野を広げ、自分を振り返るきっかけづくりとした。後期は入級児童生徒が順番に自分の特技を披露したり、興味のあることを紹介したりして、自分のよさの発見や発表することへの自信につなげることができた。

⑤ 体験活動

・「勤労生産的活動」、「創造・文化的活動」、「自然体験活動」、「社会体験活動」の４つの領域に分類し、年間計画を立てて実施した。
・地域の施設や人材を有効活用し、地域のよさを感じたり、人との関わり方や社会性を培ったりすることをねらい、原則毎週火曜日に１日または半日を単位として設定した。

【令和２年度　体験活動一覧表】

期日	内　容	場　所	期日	内　容	場　所
5/12	調理実習と真教寺公園（中止）	市教育センター	10/20	そば打ち体験と宇倍神社見学	国府方面
5/19	太閤ヶ平ハイキング（中止）	鳥取市東町	10/27	交流活動（なないろデイサービス）	鳥取市二階町
5/26	手縫いでものづくり	市教育センター	11/5	調理実習と消しゴムはんこ作り	市教育センター
6/2	ニュースポーツ①	市教育センター	11/10	鳥取大学見学（ものづくり）	鳥取大学
6/9	久松公園・仁風閣・県立博物館見学	鳥取市東町	11/18	交流活動（福部保育園） 室内ゲーム	福部町方面 市教育センター
6/16	山陰ジオパーク海と大地の自然館見学	岩美町方面	11/25	青谷和紙作り体験 青谷上寺地遺跡見学	青谷町方面
6/23	調理実習と缶バッジ作り	市教育センター	12/1	アート体験（出前講座） 室内ゲーム	市教育センター
7/1	県立図書館見学 仲間づくりゲーム	鳥取市尚徳町 市教育センター	12/9	アストロ宇宙教室（出前講座） 缶バッジ作り	市教育センター
7/7	万葉歴史館と旧美歎水源地見学	国府町方面	12/15	わらべ館見学	鳥取市西町
7/14	白兎神社見学 ブルーベリー狩り体験	鳥取市白兎 鳥取市里仁	12/22	調理実習 巨大ぬり絵	市教育センター
7/21	中国電力（出前講座） 傘踊り	市教育センター	1/12	鳥取大学おもしろ実験（出前講座） クイズすなはまリーグ	市教育センター
9/1	簡単実験と室内レクレーション	市教育センター	1/20	折り紙共同制作	市教育センター
9/8	野外炊飯 ビジターセンター見学	砂丘方面	1/26	国際交流	市教育センター
9/15	白兎グランドゴルフ	鳥取市白兎	2/2	県警察本部庁舎見学 科学実験（出前講座）	鳥取市東町 市教育センター
9/29	豆乳工場見学 江山浄水場見学	鳥取市河原町 鳥取市横枕	2/9	新日本海新聞社見学	鳥取市富安
			2/16	調理実習 昔遊び	市教育センター
10/6	ポニー牧場乗馬体験	鳥取市越路大谷	2/25	裁判所見学 高砂屋雛人形見学	鳥取市東町 鳥取市大工町
10/14	ニュースポーツ②	市教育センター			計３４回

傘踊り体験

野外炊飯

折り紙共同作品

（３） 保護者・在籍校・関係機関との連携

① 教育相談・情報共有

・保護者との個別懇談　→　年２回〈入級時、年度末(２月末)〉
・学校との教育相談　　→　年２回〈入級時、年度途中(８月)〉
・学校関係者、保護者の要望や必要に応じて、上記以外にも随時教育相談を実施した。
・「すなはまだより」（学校用・保護者用）を配付し、来月の活動について見通しが持てるようにした。
・「月例報告」（学校用・保護者用）を送付し、来所回数や活動の様子について連絡した。

② 支援会議

・在籍校との連絡を密にし、場合によっては専門機関と情報共有をしながら、児童生徒の支援について連携を図った。

③ 参観日　令和２年１２月３日（木）午前の部 10:00～12:00　午後の部 1:00～1:45

・自由参観とし、午前中は普段の個に応じた学習、午後は「学びの発表会」を公開した。「学びの発表会」では、これまで学習してきた手話や読み聞かせ、ハンドベル等を保護者向けに発表し、児童生徒が主体になって進行も行った。
・４月から１１月までのサポートルームでの様子をまとめたスライドショーを児童生徒と保護者で鑑賞した。

④ 保護者研修会　令和２年１２月３日（木）午後 2:00～2:55

『子どもの可能性を信じるかかわりとは？』
講師　　鳥取市役所　こども家庭課　　民木寛子　氏

・今回の保護者研修会はサポートルーム「すなはま」「レインボー」に入級または体験している児童生徒の保護者を対象に実施した。
・講演を聞いた後、講師の先生も交えて保護者、指導員とで茶話会を実施し、講演の内容をもとに普段感じていることや子育ての悩みを共有するとともに子どもの成長を認めるよい機会になった。

⑤ 個人ファイルの作成・活用

・個人ファイルの記録
　１週間単位で目標を設定し、日々の記録を綴り、児童生徒の成長を確認するとともに、学校や家庭からの情報についても記録に残すようにして、支援に役立てた。週末に所内関係者で回覧し、情報共有を図った。

（４）成果と課題

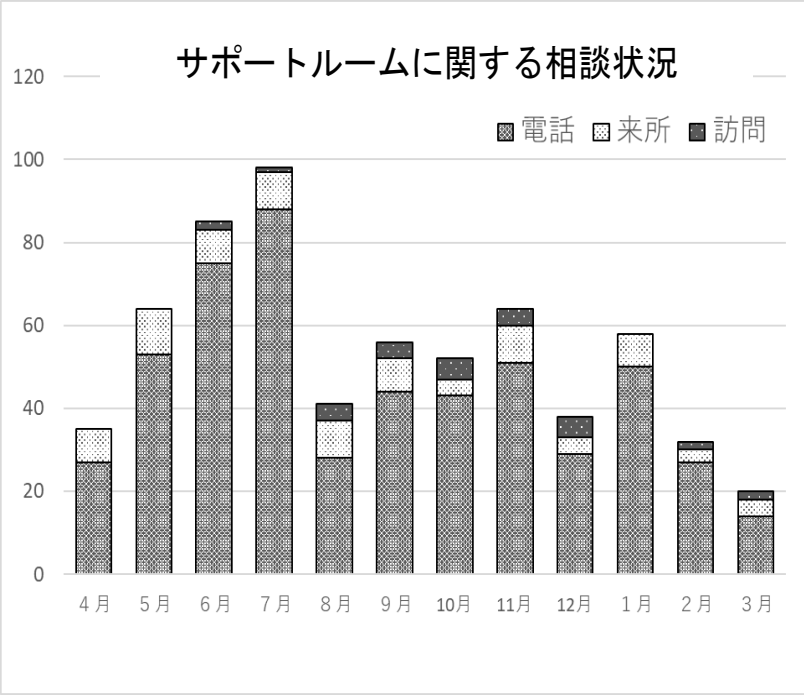
○児童生徒の実態や思いに寄り添いながら支援することで、年間を通して安心して通級する児童生徒が多かった。
○学校とこまめに情報共有しながら支援策を確認することで、学校とサポートルームのそれぞれで効果的な支援を行うことができた。また、段階的に学校復帰している児童生徒も増えている。
□見学・体験・入級児童生徒が増える中、個別対応の必要な児童生徒も増えており、ニーズに対応するための人的配置や環境づくりに苦慮した。

令和３年度に向けて
●在籍校等との連携をより密にしていくことで、一人一人のニーズや実態に即した支援や指導を行う。
●進路や学習に対して不安を持つ児童生徒、保護者が多いことからＩＣＴを活用する等して学習支援の充実を図る。

８　サポートルーム「すなはま」「レインボー」利用に関する相談状況

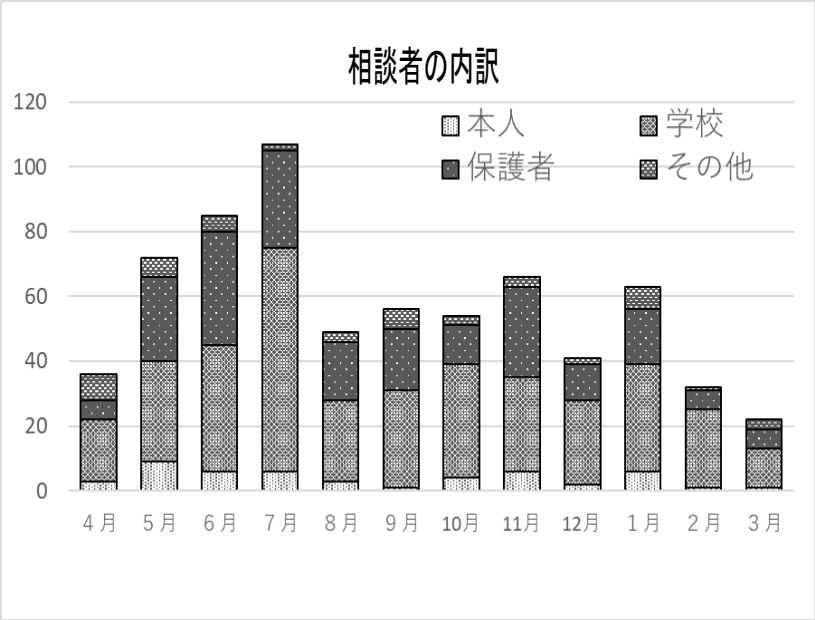
（１）サポートルームに関する相談状況（件数）

	電話	来所	訪問	全体
４月	27	8	0	35
５月	53	11	0	64
６月	75	8	2	85
７月	88	9	1	98
８月	28	9	4	41
９月	44	8	4	56
10月	43	4	5	52
11月	51	9	4	64
12月	29	4	5	38
１月	50	8	0	58
２月	27	3	2	32
３月	14	4	2	20
合計	529	85	29	643



（２）相談者の内訳（回数）

	本人	学校	保護者	その他	合計
４月	3	19	6	8	36
５月	9	31	26	6	72
６月	6	39	35	5	85
７月	6	69	30	2	107
８月	3	25	18	3	49
９月	1	30	19	6	56
10月	4	35	12	3	54
11月	6	29	28	3	66
12月	2	26	11	2	41
１月	6	33	17	7	63
２月	1	24	6	1	32
３月	1	12	6	3	22
合計	48	372	214	49	683



・電話による相談や教育センターへの来所及び見学への対応を行っている。また、入級児童生徒については、目標や支援の方向性を確認するための訪問相談を行った。

・サポートルームへの見学、体験については、学校と該当児童生徒及び保護者とで協議した上で学校から相談を受ける形にした。学校とサポートルームとが情報共有することを大切にした。

（３）見学・体験・入級児童生徒の状況（人）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
小１	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1
小２	0	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1
小３	0	0	0	1	1	1	2	3	2	2	1	1
小４	1	1	1	3	3	3	3	3	3	2	2	2
小５	0	1	2	2	2	2	3	3	3	3	2	2
小６	2	3	5	6	7	10	10	11	10	13	10	10
中１	0	0	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0
中２	1	5	6	7	5	7	9	8	7	7	5	6
中３	1	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2
合計	5	13	18	24	22	26	32	33	30	32	24	25

※見学・体験・入級児童生徒数は「すなはま」と「レインボー」の両方を含む。

（４）見学・体験・入級児童生徒の延べ人数（人）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
小１	0	0	0	13	1	2	2	1	5	3	12	16	55
小２	0	7	9	2	1	5	7	2	7	11	8	12	71
小３	2	0	0	4	0	1	13	15	6	3	2	3	49
小４	0	8	11	32	5	25	28	25	28	22	25	29	238
小５	0	4	17	8	0	3	6	6	5	1	0	1	51
小６	4	14	36	45	14	65	69	68	70	66	63	63	577
中１	0	0	6	2	0	0	3	1	0	0	0	0	12
中２	6	33	42	59	13	39	39	38	31	30	22	27	379
中３	1	6	19	10	3	8	13	13	26	22	23	8	152
合計	13	72	140	175	37	148	180	169	178	158	155	159	1584
開室予定（日）	8	16	21	20	4	19	20	19	18	16	18	18	197
１日平均（人）	1.63	4.50	6.67	8.75	9.25	7.79	9.00	8.89	9.89	9.88	8.61	8.83	8.04

※見学・体験・入級児童生徒数は「すなはま」と「レインボー」の両方を含む。

・今年度の入級児童生徒については１９人中１２名が学校にも通い、教室や相談室で活動することができた。個々の目標設定や支援のあり方については、学校、本人・保護者とサポートルームとで適宜相談し、通級の頻度や時間、学校へ行く回数を増やしてきている児童生徒もいた。
・「すなはま」「レインボー」では児童生徒の目標や支援の検討等のため、入級までの一定期間、体験を位置づけた。今年度は個別対応を希望する児童生徒が多く、人的配置や環境づくりに配慮した。

令和２年度　所報第１４号

発行日　　令和３年３月３１日
発行所　　鳥取市教育センター
　　〒６８０－００５３　鳥取市寺町１５０番地
ＴＥＬ　　（０８５７）３６－６０６０
ＦＡＸ　　（０８５７）２６－３８７８
Ｅ-mail　kyo-center@city.tottori.lg.jp
ＵＲＬ　　http://www.city.tottori.lg.jp/www/contents/1190788717391

鳥取市教育センター
Tottori City education center
돗토리시 교육 센터
鸟取市教育中心
Bildungszentrum der Stadt Tottori
〒680-0053 鳥取市寺町150番地
℡ 0857-36-6060(代表)
℡ 0857-26-3877(心の相談専用電話)